

第2学年 国語科学習指導案

1 単元 「枕草子・徒然草」

2 指導観

- 古典は、古人の思いが表されたものであるが、その時代特有のものを知ることができるだけでなく、人間としての時代を超えた普遍的なものを知ることができる。従って、古典を読むことは、自分の生き方を考えるうえで有意義なものである。

本単元の「枕草子」と「徒然草」は、古典の代表的な随筆であり、筆者の豊かな感性と鋭い観察とによって、身の周りの諸事や自然について、簡潔な文章でまとめられている。清少納言が表現した美意識や感覚、あるいは、兼好法師が書き綴った人間観や処世訓は、現代の私たちにとって、日常生活や社会生活の中で、自己の体験と重ね合わせたり、生き方の参考にしたりできるものが多い。

本単元では、随筆を読み、自然や人間に対する筆者のものの見方や感じ方をとらえることをねらいとしている。そのために、まず、古典を音読・暗唱することで、楽しみながら読み味わい、古典に親しめるようにする。また、現代語であらすじをとらえ、筆者のものの見方や考え方について捉えたり、自分の考えと照らし合わせて考えたりする。そうすることで、自分の生き方を考えることができ、生きる力をつけることにつながるものと考えられる。

- 生徒は、古典学習に関しては、1年時に「言語文化にふれる」という単元で、「竹取物語」を学習し、古典のきまりを知ったり、音読を通して古典の世界にふれたりしている。また、『『故事成語』を使って書こう』という単元では、漢文調のリズムにふれ、故事成語の由来について学んでいる。

古典学習に関するアンケートでは、古典学習が「好き・どちらかというとき」と答えた生徒は○%で、「嫌い・どちらかというとき」と答えた生徒は○%であった。「どちらでもない」と答えたのは○%。好きな理由としては、「現代では使われていない言葉を理解し、読み進めていくのがおもしろいから」「難しそうだけれど、読めて意味がわかったら達成感がありそうだから」「昔の人の考え方がわかっておもしろいから」などが挙げられていた。また、嫌いな理由としては、「昔の言葉が読めないから」「昔の言葉の意味がわからないから」「古いものを学んでも意味がないと思うから」などが挙げられていた。

多くの生徒が古文を読むことや古語に対して抵抗を感じていることがわかる。また、古典の「人間としての時代を超えた普遍的なものを知ることができるおもしろさ」に気づいていない生徒も多い。

- 指導にあたっては、まず音読を通して古典の世界に親しみをもたせたい。そのうえで、筆者の物事のとらえ方を読み取り、現代の自分たちと同じ点や異なる点を考えることで、古典に対する興味・関心を高めていきたい。

そのためには、まず、音読を繰り返させることで、古文に慣れ、古文に対する抵抗が少なくなるようにしたい。その際、個人・ペア・班・全体など、さまざまな形態で行わせることで、無理なく読みの力がつくようにしていきたい。次に、内容を読む際には、誰の動作であるかということや、説明部分と筆者の考えの部分の違いをはっきりさせることで、内容の理解ができるようにさせたい。また、自分ならどのような感想をもつかということを考えさせ、それを班で交流後、全体で発表させることで、さらに深い理解につながるようにしたい。さらに、同じような題材をあつかった段を読ませることで、筆者のものの見方・考え方の理解の助けになるようにしたい。最後に、随筆の内容と同じようなことが自分の生活や現代の社会にもないかということを考え、随筆を書くことで、古典が時代を超えた普遍的なものであり、自分たちの生き方の参考にすることもできることに気づかせたい。

3 目標

- (1) 古典に興味・関心を持ち、意欲的に課題にとりくむことができる。〔国語への関心・意欲・態度〕
- (2) 自分の立場を明らかにして考えを話したり、相手の考えと自分の考えを比べながら聞いたりすることができる。〔話す・聞く能力〕
- (3) 身近な生活から題材を探し、随筆を書くことができる。〔書く能力〕
- (4) 古文に表れているものの見方や考え方を読みとり、それに対する自分の考えをもつことができる。〔読む能力〕
- (5) 古文の特徴に注意しながら朗読し、古典に親しむことができる。〔言語についての知識・理解・技能〕

4 単元計画・評価計画 (11時間) 関(関心・意欲・態度)、思(思考・判断・表現)、技(技能)、知(知識・理解)、言(言語事項)

次	時	学習活動・内容	ねらいと具体的な支援	観点別評価規準〔方法〕
一	1 (1)	1 「枕草子」について知り、読み慣れる。 ・「枕草子」は、平安時代中期に清少納言によって書かれた随筆である。 ・古文をさまざまな形態で読む。 範読のあとについて 班で回し読み ペアで 全体で	「枕草子」について知り、古文を音読することができるようにする。 ・古文を読むことに対する抵抗をなくすために、さまざまな形態で、何回も読む場を設定する。〔協働〕	関：古文を意欲的に読もうとしている。〔様相〕
	2 (2)	2 古文を現代語訳し、筆者の考えを知る。 ・「春はあけぼの」(第1段) ・「うつくしきもの」(第145段)	「枕草子」を現代語訳し、筆者の考えをとらえることができるようにする。 ・筆者の考えをまとめることができるワークシートを準備する。	読：現代語訳し、筆者の考えをとらえることができる。〔ワークシート〕
	3 (1)	3 「春はあけぼの」について自分の考えをもつ。 ・自分は、どの季節のどんなところが好きか。 ・自分が一番共感できたのはどんなところか。	筆者の考えと自分の考えを比べることができるようにする。 ・考えを深めることができるように交流する場を設定する。〔協働〕	読：自分の考えをもつことができる。〔ワークシート〕
二	1 (1)	1 「徒然草」について知り、読み慣れる。 ・「徒然草」は、鎌倉時代末期に兼好法師によって書かれた随筆である。 ・「序段」には、筆者が文章を書くときの気持ちが書かれている。 ・古文をさまざまな形態で読む。	「徒然草」について知り、古文を音読することができるようにする。 ・古文を読むことに対する抵抗をなくすために、さまざまな形態で、何回も読む場を設定する。〔協働〕	関：古文を意欲的に読もうとしている。〔様相〕
	2 (2)	2 古文を現代語訳し、あらすじを知る。 ・「仁和寺にある法師」(第52段) ・「ある人、弓射ることを習ふに」(第92段)	「徒然草」を現代語訳し、あらすじをとらえることができる。 ・あらすじをとらえやすくするために、ワークシートを準備する。 ・筆者の感じ方についてとらえやすくするために、自分だったらどのような感想をもつかを考え、交流する場を設定する。〔創造〕〔協働〕	読：現代語訳し、あらすじをとらえることができる。〔ワークシート〕 読：自分だったらどのような感想をもつかについて考えることができる。〔ワークシート〕 話：自分の考えを班員に伝えたり、班員の意見を聞いたりすることができる。〔様相〕

	3 (2)	<p>3 3 他の段を読み、筆者のものの見方や感じ方について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「丹波に出雲といふ所」(第236段)を読み、あらすじをとらえる。 	<p>筆者のものの見方や感じ方をとらえることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が興味をもてるような内容の段を選んで読ませる。 <p>【主体】</p>	<p>読: あらすじをとらえることができる。 [ワークシート]</p>
	本 時 2/2	<ul style="list-style-type: none"> ・「丹波に出雲という所」について、筆者のものの見方や感じ方をとらえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の感じ方をより深くとらえるために、筆者の感想を想像して交流する場と、「仁和寺にある法師」との共通点を考えて交流する場を設定する。 <p>【創造】 【協働】</p>	<p>読: 筆者の感想と共通点を考えることができる。 [ワークシート]</p>
三	1 (2)	<p>1 筆者のものの見方や考え方と自分の生活や現代の社会と照らし合わせ、随筆を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古文に書かれていることと同じようなことはないか考えて、随筆を書く。 	<p>筆者のものの見方や考え方と自分の生活や現代の社会と照らし合わせ、随筆を書くことができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章を書くことに対する抵抗を少なくするために、文章の構成の例を提示する。 ・人間の普遍性についてより深く考えることができるように、書いた随筆を交流する場を設定する。 <p>【協働】</p>	<p>書: 自分の考えを随筆にまとめることができる。 [ワークシート]</p> <p>話: 自分の随筆を相手に伝えるように発表することができる。 [様相]</p>

5 本時 平成〇年〇月〇日 (〇) 第〇校時

(1) 本時の指導観

前時までに生徒は、「仁和寺にある法師」を学習したあと、類似したテーマをもつ「丹波に出雲といふ所」を読み、あらすじをとらえている。

本時では、「丹波に出雲といふ所」について、筆者のものの見方や考え方をとらえることをねらいとしている。まず、めあてを確認したあと、「仁和寺にある法師」には、最後に筆者の感想が書かれていたことを想起させ、もしも、「丹波に出雲という所」にも筆者の感想が書かれていたらどんな感想だろうかということを考えさせる。その際、まず、個人で考えさせたあと、班で交流させ、全体で確認するようにしたい。その後、「仁和寺にある法師」の話との共通点を考えさせることによって、作者のものの見方をより深くとらえることができるようにしたい。最後に、現代にも同じようなことはないかということを考えさせることで、古典により親しみが持てるものとする。

(2) 本時の主眼

・「丹波に出雲という所」を読み、筆者のものの見方や考え方について考えることができる。

(3) 評価の観点・方法

評価規準	観点	段階	方法
「仁和寺にある法師」との共通点について考え、ワークシートに書くことができる。	読む	深める	ワークシート

(4) 準備 ワークシート、短冊、マジックペン

(5) 展開

段階	学習活動・内容	生徒の反応 (自分事の問い)	具体的な支援	配時	形態
つかむ	1 課題をつかむ。 (1) 課題を把握する。 ①前時に読んだ「丹波に出雲といふ所」を通して、筆者のものの見方について考えることを確認する。	・前の時間に読んだのはどんな話だったかなあ。	・本日の学習の意欲につながるように、前時の学習をしっかり想起させる。	5分	一斉
めあて 筆者のものの見方について考えよう。					
さぐる	2 課題を追求する。 (1)「丹波に出雲といふ所」の現代語訳を読み、「聖海上人の失敗とその理由を確認する。 ・本当は、子どものいたずらだったのに何かいわれがあるものと思いついてしまったから。 (2) 筆者の感想を考える。 ①個人で考える。 ・「神社の名前だけで勝手に思いついてはいけない。」 ・「思いつ込みが強いのはよくない。」 ②筆者の感想について班で交流する。 ③班ごとに短冊に書いて発表する。	・聖海上人は、恥をかいていたなあ。涙ぐむ前に聞けばよかったのに。 ・聖海上人がなぜ失敗したのかはわかったけれど、感想を文で表現するのはむずかしいな。 ・そういう言い方もできるな。	・考えやすくするために、「仁和寺にある法師」が失敗しないためのアドバイスを述べていたことを想起させる。【創造】 ・交流がスムーズにできるように、ワークシートを準備する。【協働】	25分	一斉 個別 一斉
深める	3 筆者のものの見方や考え方をとらえる。 (1)「仁和寺にある法師」と「丹波に出雲といふ所」の共通点を考える ①個人で考える。 ・思いつ込みが強い人の失敗談。 ・早とちりは失敗のもとだという話。 ②共通点について、班で交流する。 ③発表する。	・よく考えたら、似ているところがあるな。	・考えやすくするために、「仁和寺にある法師」での学習を想起させる。【創造】	13分	個別 一斉
生かす	(2) 現代の私たちの生活にも同じようなことはないか考える。	・ありそうな話だけれど、なかなか思いつかないな。 ・昔も今も変わらないところがあるな。	・考えやすくするために、身近な例を一つ紹介する。【創造】	7分	一斉
	4 学習を振り返る。				